

輝いている人紹介

総合科学部には、自分の夢や目標に向かって、日々頑張っている人たちがたくさんいます。今回は、そんな、輝きに満ち溢れた人たちに、今頑張っている事や将来の夢について熱く語ってもらおうとともに、総科生へのメッセージも頂きました。

今回語ってくれた方々

社会文化プログラム専攻(21生)

永井 悠大 さん

行動科学プログラム専攻(22生)

宮本 知也 さん

社会文化プログラム専攻(23生)

寺本 芳瑛 さん

人間文化プログラム専攻(24生)

藤本 迪子 さん



英語団体 ONE WORLD 代表
学生団体 shallwe 幹部

ながい ゆうた
永井 悠大 さん

総合科学部の皆さん、21の永井悠大です！今回飛翔の編集長から今やっていることやこれからやろうとしていること、更には総科の後輩へのメッセージを書いて欲しいということなので、想うことをただらと書き連ねます(笑)。

まあ、自分自身のこれまでを整理するというテンションで書きます！

さて、平成21年度に入学した僕はいわゆる「21」と他学年から呼ばれる世代ですね！今年は「25」の子達が入ってくるということで、僕らなんかはもうおじいちゃん、おばあちゃんみたいなものでしょう(笑)。総科はそれぞれの学年に特色があるよう、バラエティ豊かでも面白いですが、こと21に関してはそれが特に「ヒドイ」ように思います(笑)。

そんな21の仲間達と一年生の時は毎日「大学生らしく」ドンチャン騒ぎをし、毎晩オールして単位を落とすという生活をしていました。後輩は絶対に僕を見習わないで下さいね。そんな僕も一年生の後半からは21 22 オリキャンの準備をスタッフとしてするようになり、ちよつとだけ「活動的な大学生」になりました(笑)。そんな生活をしていた僕ですが、ある時から日々の生活が退屈に思えてきました。いわゆる大二病です。そこでなんとなく本屋で見つけた「world journey」という世界一周の本を見て、「自分も世界一周しよう！」と思い立ち、一年大学を休学して半年はカリフォルニアで語学留学、もう半年で世界十七カ国をバックパックで回るという体験をしました。ここでやらだらそのことを書いても仕方がないので詳細は割愛しますが、この世界一周を通して自分が一番学んだことは、「知らなかった人と出会い、語らい、繋がり、新たな発見をすることはなんて楽しいんだろう!!」ということでした。それまでひきこもりのような大学生活を送っていた自分には、世界一周は本当に刺激的な毎日だったので。その一方で、自分がどれほど日本について知らないかを思い知らされました。海外の人と話していると、きまってる自分の国を語る機会があるのですが、自分ほとんど語れない……。ちよつと目を向けるだけで、日本でもいろいろな人たちが様々な素晴らしい活動をしています。世界に誇れる素晴らしいもので日本は溢れている。「日本で、多くの人がいろんな価値観をシェアしたり、やりたいことを語り合いながら

実現させていける場所をつくらう！」そう考えた僕は帰国後『夢 Cafe』というイベントを後輩とやってみたり、shallwe という団体を仲間と立ち上げて現在『大学サミット』という企画を準備しています。

3月からは ONE WORLD という英語学校を開校します。これは「受験だけで終わらない、使える英語力」を生徒さんに身につけてもらうことで、知らない世界にアクセスする能力を高めてほしいという想いから運営を始めています。僕は、「俺はこんなに色々動いてるぞ！すごいだろう！」とドヤ顔で語る系大学生がブロッコリーと同じぐらい苦手なので、あんまり自分の活動をあれやこれやと書くのは好きじゃないんですが、これを読んで一人でも多くの総科生（特に一年生）が「大学生って実は色々経験できる人種なのかも!？」と思ってくれたらいいなという想いで書いています。昔は学生といえは「時間はあるが、カネはない。」でした。それが今では「時間があつてバイトとかで自分が使えるお金はそこそこある。」のが現状だと思います。広大生なら（やらしい話ですが）地元ではそれなりに何故か信頼されるので、「こんなことやりたいんですが……」と企画を持っていったらすると、意外とすんなり通つたりします（笑）。

ちよつと長くなりましたが、僕が後輩に伝えたいことは「飲みや合コンでダラダラ過ごすのはアホらしいからアクティブに動きなさい」ということではないです。そうではなくて、「飲みも合コンも楽しいけど、せつかく、時間とそれなりに使えるお金と広

大生っていうある種のブランドがあるんだから、できるところからちよつとオモロそうなことやってみたらもつと楽しいかも……？」ということですよ。僕みたいに休学して世界を回るのもよし、国内で面白そうなイベントに参加してみるもよし、自分でちよつと何か始めてみるもよし。何か、これまでと違う面白そうなことをやってみて、それをハイテンションで僕に教えて下さい。そしたら僕も楽しいので（笑）。僕も別に特別な正義感や義務感で活動はしてません。「アルフォート食いたいから食う」みたいなノリでやってるだけです（笑）。

最後になりましたが、このようなアウトプットの機会を与えて頂いた編集長の上野君をはじめとする飛翔スタッフの皆さん、ありがとうございます。僕なん読んでくれた人もありがとうございます。僕なんかより賢くて、考えが深くて、面白い友人を僕はたくさん知っているので、興味ある人は声かけて下さい。紹介しますよ（笑）。それと「とりあえず何かしたいけど、何していいか分からん」という人も声かけて下さい。Shallwe で一緒に遊びましょう!!



将来は世界で活躍するのが目標！

みやもと かずや
宮本 知也 さん

えー、どうも、総合科学部22の宮本と言います、はじめまして。さて、後輩に向けて何かメッセージをと言われましたが何を書いていいかも決めていないので、とりあえず僕のことでも話そうかなと思います。今僕は大学に通いながら大道芸人 JEKYL. としても活動しています。というのも将来の夢はパフォーマンスになること。これは中学生の頃からの夢でした。路上でパフォーマンスをして、たまたま通りがかつた人がわざわざ足を止めて自分の演技を見てくれる。そしてその人の心に何か残せるものがあるれば、とこの仕事を今でもしているわけです。何気ない一日の中に、何だか今日、楽しかったな、と、よくわからないわくわくしたようなものを残していく、これが大道芸です。本当の意味での一期一会。

やっていて楽しいのはもちろんですが、人とかかわりの中に生まれる目に見えないものを職業とすることに、中学生の頃からこの年になるまで惹かれ続けてしまったわけです。と言っても、大道芸に関して、日本ではなかなか馴染みがありませんよね。簡単に言うと、路上で30分間くらいのパフォーマンスを行って、それに対してお気持ちという形で投げ銭をもらっています。そのほかにも企業のイベントやフラワーフェスティバル、福山ばら祭りなど様々な場所でパフォーマンスをしながら生活をしています。僕はメインパフォーマンスとしてジャグリングをしています。分かりやすく言うとお手玉ですね。これ

をやっていると本当によく思うことが、努力すれば人間なんでも出来るようになるんだなということ。最初は三つのお手玉も出来なかったのに、気づけば七つのボールも投げることが出来ます。大事なのは続けることなんだと日々の練習の中で感じています。僕の練習は毎日六時間ほどですが、まだまだプロの世界で生きていくには実力が足りません。ちなみに卒業後はサーカス学校に行く予定なので、卒業してもう四年ほど実力をつけてからプロの世界に足を踏み入れるつもりなのでさほど焦っているわけでもありませんが、これだけ練習しているにもかかわらず、このジャグリングって大道芸において一つのツールでしかないんですよね。大道芸における正解は見てくれる人に楽しんでもらうことです。その為には何をしたらいいわけです。僕はたまたまジャグリングを選びましたけど、歌でも漫才でも手品でもいい

んですよ。じゃあ何が大切なのかって言うと、楽しんでもらおうと思う気持ち、またそうなるための努力です。人はどんな時に楽しいと思うのか、自分がどんなことを言えば笑ってくれるのか、そもそも楽しいって何だろう。こんなことを毎日考えながら生きています。これに関しては絶対的な正解というものがないので、日々模索しながら試しては失敗し、試しては失敗し、ということの繰り返しです。でもこれがまた楽しいんですよ！実際に演技で試してみても、見てくれる人から反応が返ってきたときは生きてる！って感じがします(笑)。

僕が皆さんへ言いたいことに移ろうかな。僕が皆さんに一番伝えたいことは、将来なりたいものがあるなら、諦めずにその夢を追い続けること！よくサッカー選手なんかになれるのは一握りみたいな話がありますよね。あれはサッカー選手になるまでの努力に耐えられる人間が一握りって話だと思えます。少なくともジャグリングの世界ではそうではないと出来ない。って思ってる人は一生そう思いながら勝手に生きてください。一生才能のせいにして生きてください。一つ言います。才能ではありません。努力です。十年二十年やって、それでもダメなら、なんてことはまずありません。他の人より不器用でも関係ないです。練習で差は埋められますし、その差なんて本当に微々たるものです。僕ももともとサークルで一番ジャグリング下手でしたしね(笑)。練習できるのも才能って言う人もいます。さっきも

言いましたが、一生思い続けてください、勝手に練習なんて自分の努力でいくらでもどうにでもなるじゃないですか。一に努力二に努力です！で、この努力に費やせる時間は大学生の今、今しかないと思っています。バイトでもいいですし、サークルでもいいと思います。自分にとって何か確固たる自信を持てるもの、自分はこれなら絶対に誰にも負けないうってものを見つければ、大学生活四年間の最優先事項だと思います。勉強はみんなやっています。それはやっていると当たり前のことです。それとは別に、何か見つけることが出来れば、それだけで大学に価値はあるんじゃないかなと思います。もしジャグリングを極めたいなら僕のところへ！いつでも歓迎です！(笑) まあ何よりもまず、大学生活を楽しんで！



学生ボランティア団体 OPERATION つながり
震災復興ボランティア事業部長

寺本 芳瑛 さん

今頑張っていること、将来の夢

こんにちは！社会文化プログラム二年の寺本芳瑛（てらもとよしあき）です。普段はもっちゃんとか

よしあきとかてらもとって呼ばれています。さて、寺本の日々の中心にあるのは、学生団体での活動ですね。僕は広島大学の学生ボランティア団体

「OPERATION つながり」という団体に属していて、そこで主に宮城県を舞台に震災復興支援活動させていただいています。実際に東北の被災地に行き、人々の「心」に焦点をあてた支援活動を行います。

東日本大震災の発生後、被災者の多くの人は縁者や実家などを失ったことから、精神的な負担を深く抱いています。またそこから出てくる将来の不安などから、精神的なニーズが求められています。そういった人々の心に寄り添い、復興を後押しすることが僕たちの活動のテーマです。また、三月四日から十三日まで「つながり隊六次隊」が派遣され、宮城県の被災地で活動してきます。こういった活動をしていてすごく思うことが、「支援の在り方」ですね。以前は、寄付やがれき撤去とかをやるのが支援だと思っていたのですが、こういった活動をする上で、考えさせられることが非常に多くあります。被災地の復興の流れというのは、僕たちが思っているよりも遥かに流動的に移り変わっています。その中で、震災発生直後は物資を送ることが善しとされていたとしても、現在それは特に求められていなかったりします。被災地の人々が自立に向かっていく中で、「与える」だけの一方的な支援は自立を妨げるおそ

れがあるからです。一方で、被災地の人々のニーズというのは確実にあります。そういったデリケートな中で、被災地の人々のためにいったいどんな支援の在り方がよいのだろうというのは、常に悩みますね、正直。けど、こういったことを悩むのは、一度つくった被災地の人々とのつながりを大切にしたいからだと思うんですね。悩むときは、おのずと被災地の人々のことを想いますし、そのおかげで悩みに向き合っていけます。こういった中で、身近な人と人のつながりの大切さなど、とても大切なことを気づきとして得られている気がします。僕たち支援する側の存在は、被災地の人々がいなければありえませんが、被災地の人々のことを想う中で自分の中で多くの気づきがあります。僕はそういった存在、関係に感謝しながら支援を「させていたただいてる」という想いを抱きながら、被災地の人々に寄り添っていきたいです。

さて、話が長くなりました。失礼しました。将来の夢、将来の夢ですか。遠い将来、近い将来、いろんな将来がありますが、今自分の中で一番なりたくてアツいものは、青年海外協力隊として途上国にいき、長期滞在して教育支援をすることですね。理由は三つあります。まず、純粋に協力隊がかっこいいと思うから(笑)！次に、自分の見えないところで途上国による恩恵を受けてきていて、そういった所で、与えられるはずの選択肢がないような人に「教育」という分野で少しでも恩返しがきたらなと思うから、そして最後は、自分大好きな発言をしま

すが、激しく非日常的なところに長期的に身を置いて、現地の人々と向き合っていく中で、確固たる自分を発見したいからです。また、OPERATION つながりの活動で得た学びを途上国での支援で生かしたいですね。

総科生へ一言

これって、思ってたんですけど先輩も「総科生」に含まれますよね(笑)？恐縮です……(笑)！一言、そうですね、「面と面」な出会いをたくさんしましょう!! 学生時代にしかできないことってなんですかね？僕はたくさんの人と出会うことだと思っています。僕個人の想いとしては、社会に出るとやはり出会う人が限られてくる一方で、学生ってやっぱり選択肢が豊富で、どんな人とも会えると思うんです。社会に出たときを想定して社会経験をすべきやろ！って人もいるかもしれませんが。それは確かに！と思います。ただ、それだけでは嫌ですね(笑)。むしろ、たくさんの人と出会うことが社会に出たときに意味を成すんじゃないかなと思います。人と出会うことで、必ず「コミュニケーション」をとります。そのコミュニケーションをとり人が多様で、しかも多ければ多いほど、自分の価値観というのは多様になってくると思います。こうして、土台はしっかりとして、やりたいことを詰めていくのがいいと思うんですね。だから、いろんな県にいったって、いろんな国にいったって、いろんな人と会っていきましょ！まず、それ自体が楽しいと思いますし。学生生活、まじめにばっかやらずに、ぱあーっと外駆け出していきましょ!!



飛翔副編集長，キャンパスリポーター
広島大学広報グループ学生スタッフ

ふじもと みちこ
藤本 迪子 さん

将来について

私の将来の夢は放送作家になってテレビ番組を作ることです。お笑いが大好きなのでバラエティ番組を作って、皆さんの日常の一部になるように成長させるのが目標です。それに向けて今、大学で頑張っていることは、とにかくたくさん経験をする事です。私が飛翔を作ったり、広報スタッフとしてHU-styleを編集したりしているのは、いろいろな人と出会う機会が多いのも一因です。取材を通して知らなかったことや自分にはない考えが発見できてもやりがいを感じています。

また、夏休み、春休みが長い大学の時間を利用して海外にも積極的に行くようにしています。この夏

休みはインドネシア、そして現在はフランスに来ています。フランスには単身できていますが、人の温かみを感じています。親切に道案内をしてくれる人が何人もいて感動したり、逆にお金ほしさに近づいてきたりする人もいたりします(笑)。日本では経験できないことをどんどんしていくべきだと思いませんね。海外に行ったことで、日本に対する考えは間違いなく変わりました。

たぶん皆さんは、今私がやっていることが将来の何に関係しているのだろうと疑問に思っているかもしれません。ただ私は「放送作家になるため」ではなく、「自分を成長させるために」を第一に考えて行動しているつもりです。たくさん活動をしているように見えますが、余裕を持って反省しながらこれらの大学生活を充実させていきたいです。

総科生に一言

とにかくまずは行動してみることが大事だと思います。総科生はみんな将来の目標がバラバラで、考え方もかなり違っておもしろいですが、せっかくの大学生活を総科内で終わらせてしまったらもったいないです。失敗してもいいのでとにかくチャレンジ精神をもっていきべきだと思います。私もフランス語があまり話せないですが、今はフランス語でコミュニケーションをとるようにしています。意外と何とかなるものですよ(笑)。自分を適度に追い込むことも必要です。そうすることで初めて自分の力がどれぐらいなのかが分かります。時間がたくさんある

ので遊びがちになりますが、ぜひ本気で打ち込めるものを見つけてください。

—— 編集委員より

最初にも述べましたが、総合科学部には、日々頑張っている人たちがたくさんいます。今回は、その中から四人を紹介しましたが、他にもまだまだ、輝きに満ち溢れている人たちはたくさんいます。皆さんもぜひ、そんな人たちと言葉を交わし、自分に合った、今だからこそ出来ることを探してみてください。そして、新しいことに挑戦してみたり、何かに打ち込んでみたりしてはいかがでしょう？きつと、今までは見えなかった、新しい世界が見えてくることでしょう。

【担当】 24生 上野 裕介